

(第 22 回 GPIC 研究会 平成 30 年 2 月 15 日開催 Digest Report)

— 「H O R I B A の事業開拓への取組み」 —

【講師】

堀場製作所 開発本部  
理事 東京開発担当副本部長  
佐竹 司 様

<講演概要>

堀場製作所(※1)は創業以来、分析および計測することに着目して成長してきた。企業の姿は財務諸表で明らかにされる“見える資産”で説明でき、ステークホルダーとコミュニケーションを取って会計年度毎に区切りをつける。一方で、着実に成長を遂げるために背景にある“見えない資産”の価値を大切に考え、経営と社員が一体となり価値向上に向かって地道に努力を続けている。



分析・計測の仕事は、それぞれ最先端の技術を求められ、アプリケーションはすべて異なり、一件一件はとても小さいが、グローバル視点で展開し、集合体として拡張している。1990年代からの5カ年毎の中長期経営戦略に基づき、M&Aを戦術として活用し、事業強化を図ってきた。現在H O R I B Aグループでは、科学・医用・環境プロセス・自動車・半導体の5分野グローバル市場で、それぞれ特徴がありニッチだがNo. 1の製品を主軸に据えて活動している(※2)。その製品展開のネタは、感受性豊かな社員が、現場に足を踏み入れて、ユーザーとコミュニケーションして閃くことが多く、その行動をとれるかどうかがかぎとなる。

社是の“おもしろおかしく”(※3)は、あらゆる行動の原点にあり、不可思議な人間を最大限尊重し深く理解して真摯に対応する気持ちを後押しするものである。全グループ社員が、何時でも誰とでもスタートしゴールできる意識改革活動(Blackjack project)、毎月の社員の誕生パーティー、新製品の誕生パーティー、ステンドグラスプロジェクトと命名されて活動を続ける、多様性のあることに価値を感じる企業風土づくりなど、ソフト面でユニークな取り組みを続ける。社会から求められ、存在価値ある企業体への進化を担える人財への育成を、極めて丁寧に行っている。

(※1) 1945年10月、敗戦から2ヵ月後に京都で産声をあげた堀場無線研究所。20歳の京大生だった堀場雅夫氏(2015年7月14日、90歳にて逝去)が立ち上げた日本のベンチャー企業の草分け的存在。1950年に国産初のガラス電極式pHメーター(トップ画像)を開発。それをきっかけに1953年、堀場製作所を設立。いまや分析・計測機器のトップメーカーとして、世界27ヵ国に拠点をもつ売上高1,953億円(2017年12月期)の巨大グループへと発展した。

(※2) 例えば、自動車計測システム機器(自動車エンジンの排ガス測定装置が世界シェアNO1)、半導体システム機器(マスフローコントローラーが世界シェアNO1)等のNo.1商品を持つ。

(※3) 社是の制定までに7年を費やした、堀場雅夫氏の思い入れのある社是である(日経ビジネス「90歳の名将が実践し続けた『人間本位の経営』」を参照。)堀場雅夫氏の著書に「おもしろおかしく 人間本位の経営」がある。

(文責: GPIC 研究会)